

## 平成30年度東住吉区区政会議

### 第2回安心つながり部会

- 1 開催日時 平成30年9月26日（火）午後7時00分～午後9時05分
- 2 開催場所 東住吉区役所 3階 302会議室
- 3 出席者の氏名

（委員）

大平 和子、建林 典夫、西田 文男、花川 義翁、樋口 恒子、  
藤本 英治、美濃 満、善積 康子

（市会議員）

高見 亮、田辺 信広、

（東住吉区役所）

上田区長、山根副区長、齋藤政策推進課長、今西事業調整担当課長、  
杉本区民企画課長、池川窓口サービス課長、河村保健福祉課長、市川保護課長

#### 4 議題

- （1）開会
- （2）矢田東地域での現地視察に関する報告について
- （3）矢田東地区自主防災訓練に関する報告について
- （4）安心つながり部会からの提案事項について
- （5）その他（今後の予定など）
- （6）閉会

#### ○齋藤政策推進課長

皆さんこんばんは。東住吉区役所政策推進課長の齋藤でございます。

ただいまより平成30年度東住吉区区政会議第2回安心つながり部会を開催させていただきます。

早速ですが、進行につきましては、部会長の建林部会長にお願いさせていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

#### ○建林部会長

よろしくお願いいたします。では、次第に入る前に、欠席者の会議の有効性について確認を

いたします。

なお、本日、藤本潤委員の1名が御欠席とお伺いしておりますが、東住吉区、区政会議開催要綱の第6条第3項、区政会議の運営の基本となる事項に関する条例第7条第5項により、委員の定数の2分の1以上の出席がありますので、有効に開催されていることを、ここに御報告させていただきます。

また、本日は、大阪市会議員の田辺議員にも御出席をいただいております。

#### ○田辺議員

こんばんは。よろしいをお願いします。

#### ○建林部会長

本日は2回目の部会ということで、次回の本会議に向けて意見の集約まで行いたいと考えております。

本日についても活発な意見交換を行いたいと考えておりますので、皆さんの御協力をお願いいたします。

では、議事に入る前に、会議の注意事項について、幾つか御説明をさせていただきます。会議は発言者の氏名と発言内容が会議録に残り、公表されることを御承知おきください。会議のルールとして、委員の皆さんが発言される際は挙手をして発言したい意思を示していただき、私が指名をしましたら、最初にお名前を言っていただき、御意見を言うということでお願いいたします。委員以外の方は、部会長である私の指名がある場合を除いて発言をしないでください。

それから、会議中の携帯電話をお切りいただくこと、傍聴における遵守事項として、傍聴者の方は写真撮影や録画、録音は区長の許可なくしないことになっておりますので、委員の皆様も会議中はお控えいただきますように、よろしくをお願いいたします。

また、市会議員の田辺議員には、会議の最後に時間を設け、今日の議題について助言をいただくこととさせていただいておりますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

まず、事務局から資料の確認の後、議題に入ってまいります。

では、事務局、配付資料の確認をお願いいたします。

#### ○齋藤政策推進課長

それでは、資料の確認を政策推進課齋藤から行わせていただきます。

次第の裏面に、配付資料の一覧がございますので、こちらと合わせて資料の確認をいただけたらと思います。

まず、委員名簿です。それと座席表です。それと、資料1としまして、『第2回安心つながり部会（レジュメ）』です。それと、資料2としまして、『第1回東住吉区区民アンケートの結果について』です。資料3としまして、『矢田東地域の現地視察について』です。それと、参考としまして『矢田東地区自主防災訓練について』でございます。本日もお配りしている資料は以上ですけれども、お手元にありますでしょうか。

よろしいでしょうか。よろしく願いいたします。

## ○建林部会長

では、議題2の「矢田東地域での現地視察に関する報告について」ですが、私から資料1を用いまして、前回までの流れと今回の部会で決定する事項を確認いたします。

資料1の4ページに記載されている必要な調査事項、資料2の区民アンケートについては区役所から、資料3については私から、また矢田東地域の防災訓練については藤本英治委員から報告していただきます。これらの報告を踏まえて議論に入りたいと思います。

では、資料1で本日の流れを確認したいと思います。

1ページ目をお開きください。

前回までにモデルケースを作って波及できる形を検討するとして、防災関係における介護施設等企業との連携について話を進めてまいりました。

前のスライドを見ていただければわかると思います。近年の災害発生状況も踏まえまして、次のページにあります、介護福祉施設の多い地域などを選定して、地域、企業、介護がつながるセーフティネットのモデルを作ろうとなりまして、前回の第1回部会で、議論をさせていただきました。

本日の第2回目の部会での提案を、10月に行われます第2回区政会議本会議にかけたいと思いますので、よろしく願いいたします。

前回の部会で決定した事項でございます。モデルとなる地域を検討させていただきました。結論は矢田東地域ということで決めさせていただいたのですが、右側にも書いていますが、水害時などの被害が懸念されること及び藤本英治委員の所属しているNPOが災害時の連携について情報交換を始めていることなどから、矢田東地域をモデルとしてほかの地域へ広がっていくことを検討していこうということで、まずは、矢田東地域をモデル地域と決めさせていただきまして、本日までに必要な調査事項を3点決めさせていただき進めてまいりました。

1点目に区民アンケート、これは後ほど発表してもらいたいと思います。内容に関しま

しては部会での意見を受けまして、「防災マップ、水害ハザードマップの認知度」について、「避難準備、高齢者等の避難開始、避難勧告、避難指示などの発令される情報の意味や、その際にとる行動についての理解度」についてのアンケートをさせていただいております。

資料3の矢田東地域のまち歩きについては、私が後ほど御説明いたしますが、モデルとして検討を進める前提としまして、矢田東地域がどのような地域で、どんな特徴があるのかなどを実際に見て歩いて、地域の方々との意見交換を通じて、必要な事項を議論につなげていくことを目的として行いました。3番目に各介護事業者へのアンケートとなっております。こちらに関しましては、現在進行中ということで、まだ、まとまったアンケートは返ってきておりませんので、この場では控えたいと思っております。

最終的には、本会議の提案内容につながっていくということでございます。

まず、初めに区民アンケートの調査について御説明をいただきたいと思っております。事務局お願いいたします。

#### ○齋藤政策推進課長

それでは、私から区民アンケート結果について御説明させていただきます。

資料の2「第1回東住吉区区民アンケートの結果について」です。こちらの上段です。前のスライドを見ていただいて結構ですけれども、こちらは区民アンケートを8月24日から9月7日まで実施したものでございます。1,500通発送したのですが、回収できたのが9月7日時点で570通ということになっております。こちら先ほども御紹介ありましたけれども、前回の第1回安心つながり部会で防災マップやハザードマップの認知度でしたり、避難指示、勧告等についての理解度を把握できないかといった御意見を受けまして、質問項目を追加して調査をさせていただいたということでございます。

資料でいいますと下のところになりますけれども、防災についてということで、アンケート問19防災マップや水害ハザードマップについて知っているかどうかということ調べさせていただいたところ、両方とも知っているという方が31.8%、両方知らないという方が36.9%となっております。右の緑色に白抜き文字で書いておりますけれども、防災マップの認知度は55%で、水害ハザードマップの認知度は36.4%となっております。その下に、参考で年齢別集計を算出しておりますけれども、防災マップの認知度がほかの年齢層と比べて高いのが24歳以下でしたり、35歳から44歳で6割程度となっております。水害ハザードマップの認知度で見ますと、24歳以下と25歳から34

歳のところで5割程度となっております。

裏をご覧くださいたいと思います。もう一問、問20といたしまして、河川氾濫などの災害発生が差し迫り、避難が必要となった場合に本市から「避難準備、高齢者等避難開始」でしたり、「避難勧告」、あと「避難指示（緊急）」を発令しまして、テレビやラジオ、ホームページ、携帯電話等への緊急速報メールによりお知らせしているところがございますが、これらの情報の意味や取るべき行動についての理解につきましてお伺いしました。結果、理解している方が75.4%となっております、赤丸で囲んでいるところがございます。こちらでも年齢別集計を参考にお示ししておりますけれども、こちらは65歳から74歳で理解されている方の割合が84.3%と高く、続きまして24歳以下の方が81.5%となっております。

最後にその下で、その他基本事項とありますけれども、回答者の属性について参考にお示ししております。年齢層としましては65歳から74歳のところが24.1%と一番高くなっておりまして、お住まいの年数につきましても20年以上の方が44.5%と一番高くなっております。

右側に回答者の地域についてもお示ししております。18歳以上の区民の方を無作為に抽出して送付しているということで、地域別に均衡させるというのではなくて、年齢別を優先し、無作為抽出していますので、地域別には、こうした割合になっているということになります。

以上、私からの説明は以上でございます。

## ○建林部会長

ありがとうございました。それでは続きまして、資料3の矢田東地域のまち歩きについての御説明をさせていただきたいと思います。

8月28日午後3時から5時までの2時間で実行させていただきました。先ほども話しましたが、矢田東地域がどのような地域で、どのような特徴があるのか、空き家が多いのか、文化住宅等が多いのか、高層ビルが少ないなどを実際に見て歩き、必要な事項を議論につなげていくことを目的として、実行させていただきました。

次のページになります。当日は右側の写真にもありますが大和川に到着してから、地域全体の風景、または地形の把握ということで、高層の建設物などの把握を花川委員の案内で見させていただきました。また、その後は避難所である矢田東小学校の備蓄倉庫の物資であるとか、位置の確認、規模の確認をさせていただきました。その際に9月8日に行わ

れます、矢田東小学校での避難訓練の情報もございましたので、また、その情報を後ほど案内してもらいたいと思います。その後、矢田東やすらぎセンターに戻ってまいりまして、地域の住民の皆様との意見交換をさせていただきました。

次のページです。ヒアリングとしまして青囲みのところですが、丸を3つ書いていますけども、矢田東連合の状況をお聞きしております。ほかの地域に比べまして、高齢化率が非常に高いということ、築年数の古い建物や空き家が多いということです。2番目に大和川が氾濫した場合、被害の発生が想定されるということです。3点目に近年防災訓練の参加人数が非常に増えてきていることです。一昨年は地震、昨年は水害の想定で訓練を実施されたということで酒井災害救助部長から、訓練についていろいろお話を聞かせていただいたのですが、その内容を下にも書いております。

まず、1点目、「矢田東地域の防災計画」に基づいての現状の説明がございました。「地域災害対策本部事務局」を設置している、また地域防災リーダーの体制を引いているということです。

2点目、昨年大和川の増水で「避難準備、高齢者等の避難開始」に続き、「避難勧告」が発令された際には、当時作成していた地域防災計画が効果的に機能しなかったということでございました。町会で部屋を分けるなどの受け入れの仕組みの改善をはかったり、現在も地域防災計画の改定を進めているそうです。

3点目に、「中学生防災リーダー」の任命を行っていますということです。夏休み期間に矢田中学校の学生10名程度を中学生防災リーダーとして任命し、消防署での訓練、また、豪雨被害の被災地のヒアリングなどを行っているそうです。今後は普段からのつながりも含めて、中学生との連携を深めていきたいというお話がございました。

このヒアリングと意見交換で挙げた課題ということで、最後のページを見てください。大きく4点ございます。

1点目が、「福祉施設との連携」についてです。避難者を避難所へ連れてきてくれたのですが、発令が解除された際の施設などへの帰宅において、混乱が生じた部分があったと。ふだんから名前も顔知らない間柄は非常に連携が難しいということで、普段からのつながりをつくっていく必要があるということです。

2点目は、矢田東地域内において「水害時避難ビル」が矢田東小学校と矢田中学校だけでは避難可能人数が不十分なので、地域内の事業所に協力を呼びかけていく必要があるということです。

3点目に、「中学生防災リーダーとの連携」について、夏休みの期間、防災リーダーとして活動してもらいましたが、今後の連携方法をどうしていくか検討しているところだということでした。

4点目は、「民生委員や社会福祉協議会の方は防災リーダーに入っているのですか」との質問がありました。現在は入っていないそうです。今後は青少年指導員、青少年福祉委員の方が加入してくれるように、代表の方だけでも加入してもらえれば、各団体とのつながりがつくっていただけるのではないかと御意見もありました。下線部にありますように矢田東地域としましては、いろいろな団体、施設、企業との連携を深めていきたいというヒアリングがありました。そこで提案をさせていただいたのが、施設や企業など各団体の顔合わせのような場を設けることができないだろうか。また、避難所の運営段階から関わる人が増えることで、開設時も継続的な運営をする上でも効果的ではないのかという提案がされました。その提案の中で、防災だけではなく普段からお祭りやその他のイベントも含めまして、楽しいことを通して顔の見えるつながりを作っていけることができればいいのではないかという結論で、今回のまち歩きを終了させていただきました。

まち歩きの説明に関しましては、以上になります。

続きまして、参考資料の矢田東地域の自主防災訓練について藤本英治委員から御説明いただきたいと存じます。

#### ○藤本英治委員

「矢田東地区自主防災訓練」について、藤本から紹介させていただきます。

お手元の資料、前にもスライドが出ていますけれども、平成30年9月8日9時から10時の間で、矢田東小学校におきまして、矢田東地区の自主防災訓練が行われました。昨年度、大和川の増水により避難勧告が出たということで、その想定をもとに550人の方々が集まりました。実施主体としましては矢田東連合振興町会、矢田東小学校、矢田東社会福祉協議会が主体となって運営されました。550名というたくさんの方が集まっていたのにはいろいろと工夫がありました。もちろん周知はここに書いていますとおり学校連絡と回覧版ということですが、授業参観に合わせて1限目の授業のときに子どもたちは教室で授業を受け、親御さんは講堂で防災訓練の講演会を聞いたという、そういう工夫がされておりました。

次のページになります。青少年指導員、青少年福祉委員、総勢56名を新たに防災リーダーに位置づけて初めての訓練となりました。これは昨年の教訓をいかしまして、町会長

や町会の役員だけではとても、とても、運営ができないということ、また、町会が手薄になるということで、新たに防災リーダーを任命いたしました。そして皆さん方が参加、声かけをしていただいたおかげで、550名という方が集まったということです。

ほかに工夫がありましたのは、これも去年の経験ですけれども、自分がどこに行っているのかわからないということで、町会によって部屋を分ける、集まる場所を認知していただくということで、受付の場所でカードをお渡しして、この場所に集まってくださいという工夫もされておりました。酒井防災救助部長から、そういう今回の工夫とか、前回の反省をお話しただいて非常にわかりやすい防災訓練であったと思います。

その後、東住吉区役所の西井係長から「自然災害から身を守るために」ということで、これも非常にわかりやすいお話をいただきました。本当に防災のことを知らない方々も、ここで改めて防災のことを意識するようになったと思います。

その後、講演会の内容2ということで、矢田中学校の西川校長先生からお話ししていただきました。これも前回の教訓が活かされておまして、実際の救助活動というか、避難所で一番動いてくれたのは中学生ということが前回の教訓でわかりました。それを受けて、中学生の防災リーダーを中心に防災の意識を高め、しかも友人同士で指揮命令系統がうまく下に伝わっていくような訓練をされているというお話がありました。いろいろと教訓があって、避難の際に教室に入ることができるよう教室の鍵をマスターキーに変えたり、矢田東地区の防災というのも進んできたのかなと思っております。

報告は以上です。

## ○建林部会長

ありがとうございました。

資料1に戻っていただけますでしょうか。

資料1の最後のページで、本会議の提案内容としまして、今の各報告を受けた中で、顔の見えるつながりの作り方というのを作っていかなくてはいけないなと感じていまして、その提案に向けた本日の議論として、大きく3点、矢田東地域でどのような団体が同じテーブルに着けば、このような話が進むのか。2点目に防災を初め、どのようなテーマを話し合うことができればいだろうか。3点目に、先ほども報告にありました中学生などの子どもたちとどうかかわりを構築していくのか、という点を踏まえながら、本日の議題を進めてまいりたいと思います。

本日も、前回と同様意見交換を行います。今から20分程度、お席を移動して4名程度



に分かれていただき、チームとして話し合ってください。その後、チームの代表の方に話し合った内容を発表していただいた後、委員同士で意見交換を行います。議論していただく内容については資料1、もしくは前のスライドをご覧ください。本日の意見交換によって、今後、本会議で提案内容を確定したいと思います。具体的にどのように動いていけば提案の内容を実現できるのかを念頭に置いて意見交換ができればと思っております。前回同様活発な意見交換をしていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

なお、今から話し合ってください20分間は、部会を一時休会とし、議事録もストップさせていただきます。皆さんの状況を見て時間を延ばすかもしれませんが、私が「再開します」と発言してから部会の一時休会が解け、再開する形となります。

それでは、今から部会を一時休会とさせていただきます。

(休憩 19:28)

(再開 20:06)

## ○建林部会長

では、今から部会を再開いたします。今からの発言は議事録に残りますので、御留意ください。それでは、各チームの代表の方、話し合ってくださいの内容を発表していただけますでしょうか。両チームが発表後、質問や意見交換タイムを設けますので、ほかのチームが発表している間も、どのような質問をしよう、どのような意見を言おうということを考えながらお聞きいただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

それでは、まず、私のチームから発表させていただきます。

矢田東地域自体が、大和川から近いということで、防災についての意識が他地域に比べてもすごく高いということがある。町会、つまり地域振興会ですけれども、地域振興会というのは赤十字奉仕団でもあるということで、その部分をしっかりと強調しながら進めていきたいと思っております。

中学生などの子どもたちとどうかかわりを構築していくかということも非常に難しいところではあるのですが、矢田東地域ですと、校長先生が非常に取り組みに協力的であるからこそ防災リーダーの話も進んでいるということですので、矢田東地域での話し合いのテーブルの中に、校長先生であったり、学校関係者の方にも入っていただくことが必要ではないかということになりました。顔の見えるつながりを作っていくために、どういった方々がつながっていければいいのかということで、今の校長先生を初め、学校関係者、地域振興会、社会福祉協議会、民生委員、また、その地域での介護施設の責任者の方々に

も御参加いただきたいということでございます。介護関係者の方々は特別評議員としての社会福祉協議会の特別評議員にもなっておられる地域もあるということですので、仕事柄も合わせ持って地域への協力はおしまないのではないかと考えられます。

また、各家庭に備蓄されているお水や食料のことも考えますと、各企業での備蓄品の協力もしていただきたいということから企業の顔のつながりも必要ではないかということでもございました。その中、一旦テーブルを1つ設けるとしましてもリーダーシップを取るといふ、中心軸がなければそういったものも進めていくことはできないので、どこを中心にしながら進めていくかということが1つ考えるべき内容であります。

少し話は変わりますが、町会や各種団体のリーダーは兼任をされている方が非常に多いということもありまして、町会に入っていただく30代、40代の若手の方々の拡大というものも必要です。ですから、今回の中学生などの子どもたちのかかわり方から高齢の方々の間の中間層を、どうすれば町会という地域のつながりにかかわっていってもらえることができるのかというのを、これから考えていかななくてはいけないなということで、話が一旦終わりました。

以上です。

続きまして、善積委員お願いいたします。

### ○善積委員

まず、藤本英治委員がやってらっしゃるNPOの活動の話をお聞きいたしました。地域の福祉資源とつながりもおありだということで、矢田東の防災リーダーの酒井さんから、どんな方針があって、どういう取り組みをして、どういう防災に対してかかわりをしていのかといったところを調べてもらいたいというご依頼があったそうです。その御依頼を受けてマップを作ったということですが、つまり、地域の防災リーダーの方が、そういう資源が全くわからなかったということが裏にあると思います。そして、そういう情報を知りたいということです。情報を共有するところまではできたとして、次どう動くかというところが今止まっているというお話でした。先ほどの御報告と同じように地域の中で団体や町会等、いろいろ活動されていらっしゃるところは既につながりもあって、防災に関する取り組みも一定できるようになっているところはあるという話が出ています。中野や鷹合も同じようにいろんな取り組みを既に実践されていると。問題はそういうところに入ってこない人たちをどのようにしてテーブルに載せていくかということです。大きい会社はいろんな場面で寄附であったり、イベントの協力であったり、話をする機会があって、そ

の中で防災の話もすることができるということだったのですが、小さい店舗や会社というのはつながるきっかけがない。また、今まで経営されていた方はいいのだけでも、代がわりをしたときにつながりにくくなったとか、ワンルームマンションでオーナーが大家としてマンションに入っていない場合などは、全く昼間は人がいないからということで町会に入ることを拒まれたりと。この間の矢田東の防災訓練のときも自分の町会がどこかを知らない人もいたそうです。それは例えば、マンションで町会に入っていなかったり、新しい住民として地域にあまりかかわりを持っていなかったりという実態があると思います。その方々たちとどうしてつながらなきゃいけないのか、ということを考えてみると、その方々が災害時に避難所を利用するということはあるわけで、そのときに、例えば、避難所ではみんなが協力をするという流れになっているのに、そこに避難するということだけになってしまう。場合によっては苦情も結構言ってくることもあり、運営者としては、納得しにくい部分がでてきたりします。また、「避難場所として持っている建物を利用したい」と思っても、そういう道筋がないので利用ができないことになったり、あるいは、「せめて自分たちの施設や会社の中で避難を完結できる状況をつくってほしい」と思っても、そういうことを依頼する流れができにくいとか、そういうところがあるのではないかという話が出ています。そこで、そういう人たちにどうやって同じテーブルに着いていただくか、その人たちが関心を持つようなテーマが何だろうということを議論していきましたが、まだ決め手となる話はできていません。例えば、防災というテーマで議論をすれば入るのかということ、そうでもないのかなと思われます。アンケートを見ても結構な率で、ハザードも水害の情報も知っているし対応できるという回答があったと思います。でも、実際に動こうとして、動けるかということ、そういうわけでもないだろうと。あまりそこまで深く考えてないというか、関心があるというのは難しいかもしれないというところがあって、防災というテーマであればみんなが協力するわけでもないのかなというお話です。だから、現実を考えたときに、そういう少しずつの動きをどうつなぐかという仕掛け方は考える必要があります。ただ、やっぱりしつこくても、積極的に話をしていくということは大事だという話は樋口委員もされていて、少しずつ一本釣りの話しかけていくとか、つながっていくということは1つの手段としてはあると思います。避難訓練をされていくときにわざと危ない道などを、自分たちの目で「ここは危ないよね」、「ここを通るときに気をつけなければいけない」という認識を持っていただくような、そういうところをわざと通っていただくという経験をしていただいているというお話が鷹合であったので

すが、そういう実態を知るということは、認識を強くする1つのきっかけになると少し思いました。

以上です。

#### ○建林部会長

ありがとうございました。

皆さんの今出ました意見をホワイトボードに記入させていただきました。

各チームともにさまざまな顔のつながり、連携はとっていかなくてはいけないというのは大前提であるということです。町会に入っていない方も非常に多くいらっしゃって、実際に防災訓練をしたときにはそういう方もいらっしゃって、関係ができていくということもあるのだという意味では、防災訓練というのも有効に役立っているということになります。

ただ、その中で1つ若手の方々がなかなか、町会役員等に起用されない。また、そういったかかわりを持ってないということは、中小企業や店舗またはワンルームマンションに住まれている主婦の方々等、日中の活動をされている方々が、なかなか町会とのかかわりを持っていないというところで、防災だけじゃなく、何かそういう方々が興味を持ってもらえるテーマを考えていって、そこに防災のつながりを含めながら何か1つ、また、新たなつながりの仕掛けをしていくべきではないかという話にまとまったのかなと思っております。

という意見が出たと思います。皆さんも聞いていただいていたと思いますけども、こういった意見について皆さんどう思われますか。何か御意見、御質問ございましたら、挙手のうえお話いただければと思います。いかがでしょう。

藤本英治委員。

#### ○藤本英治委員

いろいろ意見を出していただいた中で、どうしても地縁の弱い人たちというのは、企業も含めてですけれども、待ちの姿勢なのです。だから、先ほどの話にもありましたとおり我々が一歩ずつ歩み寄っていく必要があると思うし、多分、そういう地縁の弱い人たちというのは、圧倒的に情報が少ないと思います。だから、そういう町会の情報を何らかの形で提供してあげて、町会ってそういうところなのかというような、町会があること、そういうつながりがあることすら知らない方々に我々から歩み寄っていくとか、近寄っていくということが非常に大切じゃないかなと改めて思いました。

以上です。

#### ○建林部会長

ありがとうございました。

続きまして、美濃委員。

#### ○美濃委員

私といたしましては、先ほど出ていましたけども、やはり、こういったコミュニティ、地域ですね。東住吉区に14連合はあるのですけども、それを動かすのは、やはり地域振興会が母体じゃないかなと思っております。社会福祉協議会等もあるのですが、社会福祉協議会は地域振興会の役員がそのままオーバーラップしてやっているというのが現実問題で、地域活動協議会もそういった形で、私は3つとも兼務しております。

そんな中で、先ほど建林部会長からも出ましたけども、俗に言う大阪市の町会というのは、もともと赤十字奉仕団というのが初めてできて、戦後の中で皆さん助け合おうということで、日本赤十字社とも連携しております。各町会長も赤十字奉仕団の団長という肩がきも持っておられます。防災についてはそういった形で、各地域の住民の方に啓発していただいて、1人でも多く入っていただくという手段が、今取るべき中では一番具体的な施策じゃないかなと思います。

それと、私も悩んでいるのですけども、先ほど建林部会長からありましたように、30代、40代、50代前半の役員がなかなか入っていただけないということで非常に悩んでおります。やはり、お父さんソフトボールとか、子ども会の役員とか、そういう形で町会サイドに来るわけですけども、その子ども会が各地域でも元気がない状況の中で役員のなり手がいないということで、これは本当に困っております。青少年指導員ですら、なかなか入っていただけないというのが現況でして、非常に難しい。その辺で皆さん方から知恵があれば教えていただきたいなと思っております。

以上です。

#### ○建林部会長

ありがとうございました。

それでは、善積委員。

#### ○善積委員

結構、根本的な問題ですよ。

さっき藤本英治委員がおっしゃったように情報を渡すというか、情報を知ってもらうと

いうのはすごく大事だとは思いますが、地域の町会の役員と言われても、新しく来られた方とか、若い世代の人たちにとって、その権威は余り意味がないと思います。「偉い人かもしれないけど、うるさい人かもしれない」とか、「いろいろ仕事を言われて従わなきゃいけないなんて嫌だ」って、正直そう思うものじゃないかなと思います。現代の若い人たちがこういった活動に理解をして自分も役を担ってやろうというところに持っていかうとすると、今までのやり方であると、少し難しいかもしれないというのは、私自身がまちづくりの支援をずっとやっている中で感じています。拘束時間が長いとか、家族でいたいと思っている時間を出ていかないといけないとかで、やっぱり嫌だと思ってしまう。それを「やってくれないと困るよ」という話になったら、そこで歩み寄れない部分がどうしても出てきてしまうのだと思います。多分、そういう世代の人も、事業所の人もお金を出さないといけないということになると、お金を出すメリットは何かと考えます。そうすると自分たちにとって利益があると思えなかったら、町会や、こういう防災訓練にもかかわりたくないとなってしまうのだろうなと思います。

何をやっているかがそもそもわからない団体に協力しろ、お金を払えと言われても、それはしたがないわけです。そこはどんな人が今役員をしているという、例えば、顔写真とその人がどんな貢献を地域にしてくださっているかがわかる情報発信の仕方をほかの地域で、お勧めしたことがあって、そういうパンフレットを作ったこともあるのですけれども、そういうふうにもう少しわかりやすくすることが必要だと思います。

あと、私が住んでいるところでやっているやり方ですけれども、すごくイベント的な防災訓練です。大昔に川が氾濫したことがあるエリアなので、その川岸のところに砂防ダムの模型を持ってきて、川が氾濫するとこうなるという模型を見せて、子どもたちが遊びながら、「こういう構造が山の上にあるから今は守られているのだね。でも、これがどうなっちゃうと、この砂防ダムでさえ危ない状況になるのか」ということをまず理解する。そういう遊びを兼ねた場所があり、その横には屋台が出ています。雪遊びができるとか、少し仕掛けのあるイベントをやっているとして、いろんな人たちが来るようにチラシをポスティングします。それを見てその場に人が集まってきて、合わせて「この人が役員さんなんだね」とか会話をして知り合いになるきっかけになっています。そういう特徴がある活動もあるということをお参考までにお伝えしたいと思います。

## ○建林部会長

ありがとうございました。

今の話をまとめますと、1つは話し合いのテーブルを持つにしましても、どこの地域も現在の役員の方々が兼任されていて高齢の方が多いという中で、次の若手の方をどう育成し、また、広げていくのかというのはテーマになっています。そのテーマのもとに今のままのやり方では、なかなか広がらないというのは皆さん重々感じておられるところで、じゃあ、若い方々に、また地縁の弱い方々にどう情報発信をしていくのかというのが1点。さらにその方々に役員に取り組んでもらうという、次のステップに行くためにも地域でのメリット、また、その役員になることによつての役割分担等もあれば少しは関係していつてくれるのではないかという点。また、そういったものの最初のきっかけづくりとしまして、イベント性のある地域行事を開催していくという、この3点を皆さんとともに考えていければいいのではないかなと感じました。

本会議の、この提案事項の確定をこの後していかななくてはけません。本会議での取り組み項目の説明内容または必要であれば、今後の調査項目の追加について再度全体で15分程度、もう一度意見交換をしたいと思います。この15分についても部会一時休会として議事録も一時ストップさせます。ですから私が「再開します」と発言をしてから部会の一時休会が解け、再開する形となりますのでよろしくお願いいたします。

それでは、今から部会を一時休会としますので、もう一度各テーブルに移動していただきまして、今の話について検討していただければと思います。よろしくお願いいたします。

(休憩 20:32)

(再開 20:55)

## ○建林部会長

では、今から部会を再開します。

今からの発言は議事録に残りますので、御留意ください。

委員の皆さんからいただいた御意見を整理しますと、情報発信を地縁の弱い人、また、若い方々へしていくべきだと。また、イベント性のある地域行事を行うことによつて、その地域での若い方々のやりたいことを応援する形をつくっていくことができないかということになりました。そのために各地域で、皆さんの意見を聞けるような体制づくりが必要ではないのかと。アンケート等いろいろあるかと思いますが、そういったことを進めていければ、何か1つ形を作ることができるのではないかという意見になりました。これらの意見につきましては本会議で、こんな意見が出ましたということをお報告いたします。取りまとめに関しましては、部会長を中心に行うことになっておりますが、皆様に御協力をお

願いすることもあるかと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

では、市会議員の皆様、今日の議題で何か助言等ございましたらどうぞよろしく願います。

#### ○田辺議員

皆さん、お疲れさまでございます。本当に夜遅くにもかかわりませず活発な御議論、そして貴重な御意見ありがとうございます。区政会議ということで我々からどうこうということは特にないのでございますけども、本当に皆さん方の御尽力がよりよい地域、よりよい区政に反映、進展されることを私からも祈念申し上げます。ありがとうございます。

区役所に1点だけ、今日、善積議長からございましたように、このアンケートです。防災マップとハザードマップのアンケートですけど、電話調査であったり、対面での調査であれば、そのままこの比率使えると思うのですけれど、郵送で回収数が少ない場合、恐らく回答される方の意識は積極的だろうと思しますので、往々にしてあるのですけど、認知率はもう少し低いのかなという気はしています。

それともう一点、ハザードマップって、私、前から思っていたのですけど、ハザードという言葉ってどうなのかなと、私、思うのですけど。特にこの調査結果見ますと65歳以上で水害ハザードマップの認知度がぐんと下がるんです。そのあたりもう少しわかりやすい言葉のほうがいいのかなと、今日改めて思った次第ですけど、いかがでございますか。そんなところでございます。ハザードという言葉、皆さん直訳御存じですかね。私だけで、知らないの。実際に結果はかなり低い比率が出ていますので、できるだけわかりやすい表現がいいのかなと思います。

本当に皆さん、今日もお疲れさまでございました。ありがとうございました。

#### ○高見議員

僭越ながらお話しさせていただきます。

本当に実のある議論をありがとうございました。大変勉強になりました。

今日いろいろお話を聞かせていただいて、今回の矢田東の防災訓練550名ってすごいなと思って資料も拝見しておりました。私、先月仙台で実際の避難所運営、地震のときどういうふうになったという話を聞かせていただいたのですけど、やっぱり学校が一番大事です。災害の最前列になるので、そこを巻き込んでやるというのは本当にいいことだなと思って聞いていました。そこで運営委員会、実際、避難所を運営するのに地域のどの方が入って、どういう意思決定をして、そういうことをきっちり決めておかないともめるよね



というのを想定していました。ほかにも学生の参加、先程学生がすごく活躍されたという話をお聞きかせいただいたのですが、もちろん仙台も同じでした。学生が災害のとき積極的に避難者に声をかけたりして、いろんな仕事もすごく積極的にやってくれたと。本当に災害のときはみなさんストレスがたまりますので、明るい声で元気よく挨拶してくれる、いろんな人に声をかけて和をつくってくれる。すごく大事だと思うので、学生の意識をもっともっと高めていくことは、本当に大事なことだと思います。

ほかにも、先生の役割です。実際、避難所ができて、特に長期化してしまうと学校の先生というのが本当に一番働くみたいな状況になってしまうのです。そういうところも想定して、個々の先生に対しても災害のときどういう役割を担っていただけるのかという話もしてみるのもいいのかなと思いました。

あとは、後半のなかなか地域に入っていけないとか、災害に対して興味を持っていない人々、これに対してどうアピールしていくかということ、これって二重の意味で問題だと思います。そういうことに意識がない人って、災害が起きたときに真っ先に難民になるタイプです。また、地域に参加していただけないから運営に対しての戦力にもならないという、ここをどう考えていくかという本当に難しい問題と思うのですが、やっぱり情報発信の強化しかないのかなと、今のところは思っています。そういう方は、普段は興味がなくても災害のときには必死に調べますので、そういう方に対してどう発信していくかという、災害時での発信というのを考えてみてもいいのかな。大阪市防災アプリ、そこに一応、避難所をどう見つけたらいいのか書いてあるのですが、大多数の人は知らないと思うので、そういうのも告知していけたらいいのかなと。区役所にはLINE等の通知できるツールもあるので、そういうところに、今こういうイベントがあるので参加してほしい、そういう情報発信をしていくのも大事なのかなと思いました。

いろいろ拙い意見ではございますけど、私からはそんなところでございます。本日はありがとうございました。

#### ○建林部会長

ありがとうございました。

今回は、このあたりで会議を終了しますが、次回会議の日程調整について事務局からお願いをいたします。

#### ○齋藤政策推進課長

それでは、今後のスケジュールについてですけれども、先ほど皆さんにお配りさせていただいて、スケジュール調整をさせていただきました。10月の中旬から11月上旬までに何とか開催させていただきまして、運営方針に反映できたらと思います。この2回の部会や現地視察等、そういった部分を本会議への提案として、部会長を中心に我々もサポートさせていただいて取りまとめをさせていただきたいと思っておりますので、皆様方の御協力をよろしくお願いいたします。

以上でございます。

#### ○建林部会長

ありがとうございます。

それでは、最後に区長より一言よろしくお願いいたします。

#### ○上田区長

皆さん、遅くまでありがとうございました。冒頭説明ありました8月28日に暑い中、現地調査に行ってくださいまして、本当にありがとうございました。

また、矢田東の防災訓練も数名の方に見にいただきましてありがとうございます。550名の参加者があったということで、地域の防災意識が非常に高いということで、もちろん仕掛けもあったとお聞きしておりますけれども、非常にありがたいと感じました。

それから私、常々、区役所と地域と学校のトライアングルの関係が非常に大事だと思っております。各学校にお邪魔したときに、特に中学生、先ほどもお話がありましたように、昼間におきましては若い世代が出てしまっているという意味で中学生の力に大いに期待したいところがありますし、一方で心のケアにおきましても、中学生は非常に大事だと考えております。そういった意味で防災訓練をお願いしたいということを各校長に伝えております。ただ、学校においてはいろいろな考え方があり、今日紹介されましたように矢田中学のように防災リーダーもつくっておられるところもあります。東住吉区全体にそういう意識を持った形で広めていければいいのかなと感じております。

皆さん、いろいろとご議論いただいた中で各地域において地域活動協議会、そして、その中心となります地域振興会等で、ご活動いただいているがゆえに、様々な課題を今日ご提示していただけたのかと思います。それを解決していくための仕掛け、あるいは周知方法等をいかに知っていただくかということが、共通の課題であると認識できたと考えます。これに対して、先ほど建林部会長がまとめいただきましたが、様々なアイデアが出されてきましたので、次回に向けてその詳細が整理されていくとありがたいと考えております。

ので、どうか引き続きよろしくお願ひしたいと思ひます。

今日はどうもありがとうございました。

**○建林部会長**

ありがとうございました。

それでは、第2回部会を終了させていただきます。

ありがとうございました。

(拍手)

—了—